

商業簿記

第1問 仕訳問題

1. 買付を委託した商品が届いたので、仕入勘定で処理すると同時に、手付金額は委託者に対する債権の減少として、委託買付勘定を貸方に記帳し、請求金額は委託者に対する債務の増加として、委託買付勘定の貸方に記帳します。
2. 定期的な修繕において、修繕引当金を取り崩し、修繕引当金を超過する金額は修繕費勘定で処理します。
3. 売買目的で購入した国債の取得原価と売却価額の差額を有価証券売却損益として計上します。また、端数利息を計算して有価証券利息勘定で処理します。

取得原価 ￥485,000

売却価額 ￥486,000 - 端数利息 ￥1,320 = ￥484,680

端数利息 $¥500,000 \times 1.46\% \times \frac{66\text{日}}{365\text{日}} = ¥1,320$ 平成20年4月1日～6月5日

売却損益 ￥484,680 - ￥485,000 = ￥320 (売却損)

4. 法人税等を中間納付したときの仕訳は下記のとおりです。

(借方) 仮払法人税等 2,410,000 (貸方) 現金 など 2,410,000

￥1,500,000 + ￥650,000 + ￥260,000 = ￥2,410,000

そして、決算において、法人税等の確定額を法人税等勘定で処理し、中間納付分の仮払法人税等勘定を減少させ、未納付分を未払法人税等勘定で処理します。

5. 車両に保険がかけられている場合、当該車両に対する車両勘定と車両減価償却累計額勘定を減少させます。また、問題文の指示により当期分の減価償却費を計上します。

減価償却費 $¥900,000 \times 0.9 \div 6\text{年} \times \frac{8\text{カ月}}{12\text{カ月}} = ¥90,000$ 4月1日～11月30日

そして、使用不能時点の帳簿価額を未決算勘定で処理します。

未決算 $¥900,000 - ¥405,000 - ¥90,000 = ¥405,000$

第2問 伝票会計

1. 仕訳日計表の作成方法 (5伝票制)

入金伝票の金額を集計し、現金勘定の借方に記入します。

出金伝票の金額を集計し、現金勘定の貸方に記入します。

仕入伝票の黒字の金額を集計し、仕入勘定の借方に、赤字の金額を集計し、仕入勘定の貸方に記入します。

売上傳票の黒字の金額を集計し、売上勘定の貸方に、赤字の金額を集計し、売上勘定の借方に記入します。

入金伝票、振替伝票の貸方科目、仕入伝票の黒字の貸方科目、売上傳票の赤字の貸方科目をそれぞれの科目の貸方に記入します。

出金伝票、振替伝票の借方科目、売上傳票の黒字の借方科目、仕入伝票の赤字の借方科目をそれぞれの科目の借方に記入します。

勘定科目ごとの記入が終わったら、貸借を合計して一致することを確認して締切ります。

2. 総勘定元帳への記入方法

総勘定元帳へは、仕訳日計表から合計転記を行います。

3. 得意先元帳への記入方法

得意先元帳 (売掛金元帳) へは、各伝票より個別転記を行います。

第3問 精算表の作成

決算整理事項その他にもとづいて決算整理仕訳を示すと次のようになります。

1. 期限到来済み社債利札の処理

(借) 現金預金	500	(貸) 有価証券利息	500
----------	-----	------------	-----
2. 当座預金の整理
 時間外預入れ
 仕訳なし
 支払利息の引き落とし未通知

(借) 支払利息	2,300	(貸) 現金預金	2,300
----------	-------	----------	-------
3. 売掛金の貸倒れ

(借) 貸倒引当金	10,000	(貸) 売掛金	10,000
-----------	--------	---------	--------
4. 貸倒引当金の設定

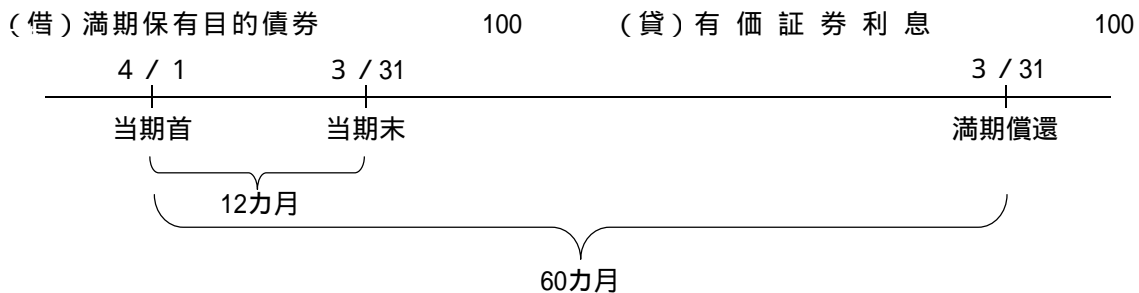
(借) 貸倒引当金繰入	9,300	(貸) 貸倒引当金	9,300
-------------	-------	-----------	-------

見積額 $(¥150,000 + ¥210,000 - ¥10,000) \times 3\% = ¥10,500$
 繰入額 $¥10,500 - (¥11,200 - ¥10,000) = ¥9,300$
5. 有価証券の評価
 売買目的有価証券の評価替

(借) 売買目的有価証券	200	(貸) 有価証券評価益	200
--------------	-----	-------------	-----

評価損益 B社株式 時価¥82,500 - 簿価¥85,000 = ¥2,500 (評価損)
 C社株式 時価¥65,000 - 簿価¥62,300 = ¥2,700 (評価益)
 計 ¥ 200 (評価益)

満期保有目的債券の償却原価法(定額法)



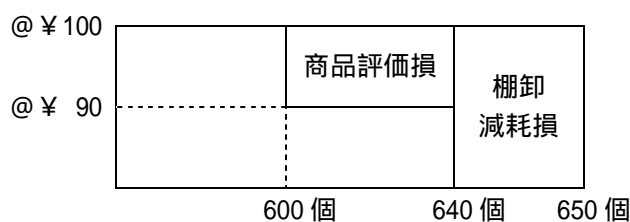
償却原価法(定額法)による増加額 $(¥50,000 - ¥49,500) \times \frac{12\text{力月}}{60\text{力月}} = ¥100$

6. 売上原価の算定

- | | | | |
|----------|--------|----------|--------|
| (借) 仕入 | 58,000 | (貸) 繰越商品 | 58,000 |
| (借) 繰越商品 | 65,000 | (貸) 仕入 | 65,000 |
- 期末商品帳簿棚卸高 @ ¥100 × 650個 = ¥65,000

期末商品の評価

- | | | | |
|-----------|-------|----------|-------|
| (借) 棚卸減耗損 | 1,000 | (貸) 繰越商品 | 1,000 |
| (借) 商品評価損 | 400 | (貸) 繰越商品 | 400 |



棚卸減耗損
 $@ ¥100 \times (650\text{個} - 640\text{個}) = ¥1,000$
 商品評価損
 $(@ ¥100 - @ ¥90) \times 40\text{個} = ¥400$

600個については、原価よりも時価のほうが高いため評価損は計上されません。

7. 減価償却費の計上

(借) 減 価 償 却 費	201,920	(貸) 建物減価償却累計額	120,000
		(貸) 備品減価償却累計額	81,920
建物(定額法)	$¥4,000,000 \times 0.9 \div 30 \text{年} = ¥120,000$		
備品(定率法)	$(¥800,000 - ¥390,400) \times 20\% = ¥81,920$		

8. 株式交付費の償却

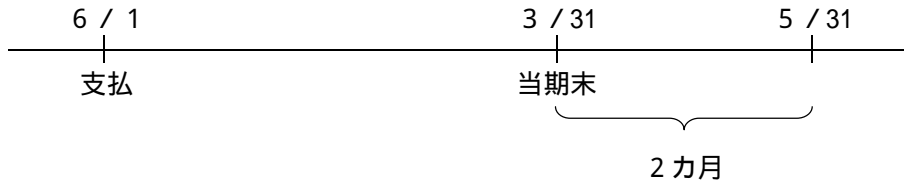
(借) 株式交付費償却	1,750	(貸) 株式交付費	1,750
	$¥9,000 \times \frac{7 \text{カ月}}{36 \text{カ月}} = ¥1,750$	当期9月1日~3月31日	

9. 商品保証引当金

(借) 商品保証引当金	35,800	(貸) 商品保証引当金戻入	35,800
(借) 商品保証引当金繰入	112,000	(貸) 商品保証引当金	112,000

10. 支払保険料の繰延(前払)

(借) 前 払 保 険 料	1,100	(貸) 支 払 保 険 料	1,100
---------------	-------	---------------	-------



$$¥6,600 \times \frac{2 \text{カ月}}{12 \text{カ月}} = ¥1,100$$

工業簿記

第4問 本社工場会計

まず、工場会計が独立していない場合の仕訳を考え、次にその勘定科目が本社と工場のどちらに存在するかを考えます。そして、仕訳の中に本社と工場の両方の勘定科目がある場合は、仕訳を分解するときに相手勘定を本社では工場勘定、工場では本社勘定で処理します。

工場会計が独立していない場合の仕訳を示すと、次のようになります。(単位：円)

(借) 材 料 2,160,000	(貸) 買 掛 金 2,160,000
(工場の勘定)	(本社の勘定)

@1,000円 × 2,000kg + 160,000円 = 2,160,000円

(借) 仕 掛 品 1,944,000	(貸) 材 料 2,052,000
(工場の勘定)	(工場の勘定)

(借) 製 造 間 接 費 108,000	
(工場の勘定)	

すべて工場の勘定なので、上記の仕訳が工場の仕訳となります(本社は仕訳不要)。

2,160,000円 ÷ 2,000kg = @1,080円

直接材料費 @1,080円 × 1,800kg = 1,944,000円

間接材料費 @1,080円 × 100kg = 108,000円

(借) 仕 掛 品 1,800,000	(貸) 賃 金 ・ 給 料 3,244,000
(工場の勘定)	(工場の勘定)

(借) 製 造 間 接 費 1,444,000	
(工場の勘定)	

すべて工場の勘定なので、上記の仕訳が工場の仕訳となります(本社は仕訳不要)。

直接工(直接労務費) @900円 × 2,000時間 = 1,800,000円

直接工(間接労務費) @900円 × (120時間 + 40時間) = 144,000円

間接工(間接労務費) 1,400,000円 - 400,000円 + 300,000円 = 1,300,000円

(借) 製 造 間 接 費 800,000	(貸) 設 備 減 価 償 却 累 計 額 800,000
(工場の勘定)	(工場の勘定)

すべて工場の勘定なので、上記の仕訳が工場の仕訳となります(本社は仕訳不要)。

(借) 仕 掛 品 1,600,000	(貸) 製 造 間 接 費 1,600,000
(工場の勘定)	(工場の勘定)

すべて工場の勘定なので、上記の仕訳が工場の仕訳となります(本社は仕訳不要)。

21,120,000円 ÷ 26,400時間 = @800円

@800円 × 2,000時間 = 1,600,000円

第5問 工程別総合原価計算

問1 解答参照

問2

第1工程（先入先出法）

正常仕損は工程の終点で発生しているので、完成品のみを負担させます。この場合、正常仕損の数量を完成品数量に加算して、月末仕掛品原価と完成品総合原価を計算します。

原料費

		原 料 費			
30個	月初	58,000円	完了 →	58,000円	30個
	当月	666,000円	→	555,000円	
			→	月末 111,000円	60個

300個
+
613,000円
30個

月末仕掛品原価 $\frac{666,000円}{(300個 + 30個) - 30個 + 60個} (= @1,850円) \times 60個 = 111,000円$

完成品総合原価 $58,000円 + 666,000円 - 111,000円 = 613,000円$

加工費

		加 工 費			
18個	月初	27,500円	完了 →	27,500円	18個
	当月	484,980円	→	427,440円	
			→	月末 57,540円	42個

300個
+
454,940円
30個

60個 × 70%

月末仕掛品原価 $\frac{484,980円}{(300個 + 30個) - 18個 + 42個} (= @1,370円) \times 42個 = 57,540円$

完成品総合原価 $27,500円 + 484,980円 - 57,540円 = 454,940円$

合計

月末仕掛品原価 $111,000円 + 57,540円 = 168,540円 \dots$ の解答

完成品総合原価 $613,000円 + 454,940円 = 1,067,940円$ 第2工程の前工程費へ... の解答

問3

第2工程（先入先出法）

正常仕損は工程の途中で発生しているので、月末仕掛品と完成品の両者負担させます。この場合、正常仕損の数量を無視して、月末仕掛品原価と完成品総合原価を計算します。

前工程費

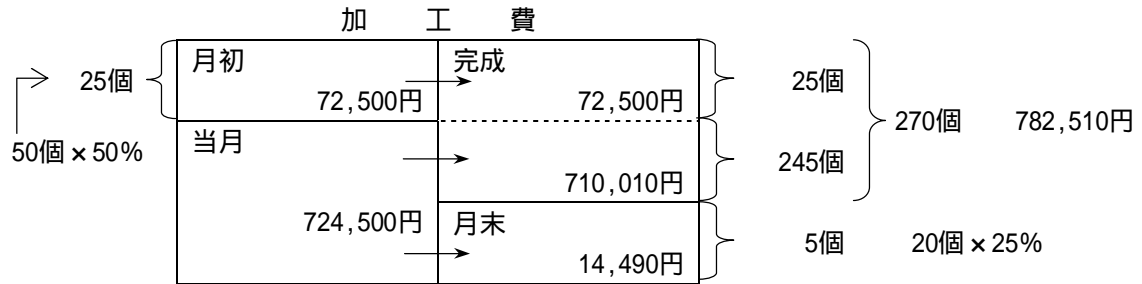
		前 工 程 費			
50個	月初	220,000円	完成 →	220,000円	50個
	当月	1,067,940円	→	978,945円	
			→	月末 88,995円	20個

270個 1,198,945円

月末仕掛品原価 $\frac{1,067,940円}{270個 - 50個 + 20個} (= @4,449.75円) \times 20個 = 88,995円$

完成品総合原価 $220,000円 + 1,067,940円 - 88,995円 = 1,198,945円 \dots$ の解答

加工費



月末仕掛品原価 $\frac{724,500円}{270個 - 25個 + 5個} (= @2,898円) \times 5個 = 14,490円$

完成品総合原価 $72,500円 + 724,500円 - 14,490円 = 782,510円 \dots$ の解答

合計

月末仕掛品原価 $88,995円 + 14,490円 = 103,485円 \dots$ の解答

完成品総合原価 $1,198,945円 + 782,510円 = 1,981,455円$